

「第二十四回世界仏教徒会議」

「第十五回世界仏教青年会議」

「第七回世界仏教大学会議」

大会宣言文

平成二十年十一月十三日から十七日の間、東京浅草で開催された第二十四回世界仏教徒会議において、我々参加者は以下のように宣言する。

・我々は全日本仏教会の心尽くしの歓待および、開催に際しての手際の良い企画運営に深い感謝の意を表す。

・今大会では「仏教者の社会問題解決への貢献」というテーマのもと、過去の実績に基づき、経済安定、平和と共生、終末期ケアにおける社会開発、ジェンダー問題、自殺問題、青少年育成、そして環境問題に関する、さまざまな課題と向き合う機会となった。

・我々は世界の仏教徒が、生きとし生けるものの全ての幸福のため、各々の伝統を通じ教えを広めるという重要な役割を果たしていることを認識する。

・来る二〇一一年のベサツクにおける釈尊成道二千六百年記念行事を契機として仏教徒の社会問題に対しての意識を高め、財源

のゆるす限りの多くの事業を検討の上で実施する。

・仏教国にも被害が及んだ近年の自然災害に思いを致し、被災地に対して迅速且つ適切な人道支援を行う、世界仏教徒連盟の役割拡大のため引き続き尽力する。

・最後に、今一度「慈・悲・喜・捨」の四無量心の教えに還り、人類のため仏教を広めることを全ての仏教徒に奨励する。

世界仏教徒会議日本大会 大会宣言文について

世界仏教徒会議日本大会における大会宣言文を起草するため、宣言文案起草委員会が十一月十四・十五日の両日開催された。同会議には、本会代表からも意見具申がなされた。

十六日に開催された第二回WFB全体会議に於いて前記の宣言文が承認された後、七頁掲載の日本側の宣言文も取り上げられ、両宣言文が併せて承認された。



宣言文案を検討する起草委員会（撮影 田村仁氏）

私達、世界の仏教徒は、東京・浅草につどい、第二十四回世界仏教徒会議、第十五回世界仏教青年会議、第七回世界仏教大学会議を開催した。今大会では、Buddhists' Contribution to Resolving Social Problems「仏教者の社会問題解決への貢献」のメインテーマのもと、諸会議、シンポジウム、法要などを行った。

シンポジウムに先駆けて、映画「幸せの経済学」が上映された。この映画は、世界各地で地域社会の解体を引き起こし、自然環境を破壊しているグローバル化に対して、地域の経済的・社会的・文化的つながりを再び強めるローカル化の必要性を訴えている。シンポジウムでは、世界の各地で起きている社会問題（自殺、青少年育成、ジェンダー、終末期医療、平和構築、社会開発、環境）について、各国の仏教者が人々と同じ目線で、それぞれの地域の中で行なっている実践的な取り組みが数多く報告され、今後私達が仏教者として歩むべき道が検討された。

そして釈尊の説かれた「苦」（様々な社会問題の認識）、「集」（問題の原因を把握）、「滅」（解決のための目的設定）、「道」（具体的な解決への努力）という四諦（したい）の教えの道筋に従い、仏教者がそれぞれの地域社会の持つ特性を生かし、その中で自らが

具体的な行動へと踏み出すべき事が提案された。さらに、各地の寺院が地域の調和と人々の幸せの為に中心的な役割を担うことの必要性が強調された。

また大会では、具体的な行動への第一歩として、第二次世界大戦の空襲で破壊され、本年で再建五十年を迎えた浅草寺本堂を会場に、人々の変わらぬ平和への願いの込められた世界平和法要が、多くの地域社会の人々の協力のもと行なわれ、本大会参加者三百七十余名が随喜した。

WFBは、昨今のミャンマーでの社会情勢への対応、また同じくミャンマーでの水害、中国での地震復興支援など、各国センターとの連携のもと、有効な活動を行っている。私達世界の仏教徒は、今こそ釈尊が説かれた「縁起」の教えのもと、互いの価値観を尊重し、共に連携し、人々と苦悩を共有し、多くの社会問題解決へと具体的な行動を起こすことを宣言する。

そしてこの大会の成果が今後、WFBと関係諸国の仏教者の新たな活動の端緒となり、宗教を超えて広く一般社会へと及ぶことを期待する。